

うつくしいものが生まれる島 「琉球 美の宝庫」展

会期 2018年7月18日～9月2日

多くの島々からなる沖縄は、かつては琉球と称され、独自の美が生み出された海上王国であった。15世紀に統二王朝が成立し、400年以上にわたって東アジアを舞台に“万国津梁（世界の架け橋）”として繁栄した琉球王国は、諸国の至宝で満ちていたといわれている。

本展覧会では、鮮やかな紅型に代表される染織や、中国・日本から刺激を受けて描かれた琉球絵画、螺鈿・沈金・箔絵などの技法を使つたきらびやかな漆芸作品を中心におく。首里王府の染織や漆器のデザインには、絵師が関わつていたとされており、染織・絵画・漆芸を特集することで琉球の美術を総合的にとらえ、その実像に迫る。第二次世界大戦の戦禍をくぐりぬけ現在に守り伝えられた優品が集

う貴重な機会であり、とくに首里王府を治めた尚家に継承された「国宝琉球国王尚家関係資料」は必見である。

「生活の中の美」をテーマとしてきたサントリー美術館では、紅型や琉球漆器といった琉球の美術がコレクションのひとつをなしてきました。

沖縄に関する展覧会も1968年の「秋の特別展 沖縄の染織」をはじめ、琉球政府立博物館（現沖縄県立博物館・美術館）と共に催した1972年の「特別展観50年前の

沖縄」、1998年の「秋の特別展 沖縄の染織」開催から50年目となる。東アジアの美を結び、新たに独自の美としてひらいた琉球の美術は、文化の多様性や新鮮な魅力に満ちおり、本展が時代を超えて受け継がれてきた琉球王国の輝きを見ることができる貴重な機会である。

王族ら高貴な人々の衣裳は首里王府にあつた貞摺奉行所という機関にいた絵師が下絵を担当していたといわれている。

本木に移転開館した後も、2012年に「沖縄復帰40周年記念 紅型INGATA—琉球王朝のいろとかたち—」を開催している。2018年は、1968年の「秋の特別展 沖縄の染織」開催から50年目となる。紅型は型紙を用いて模様を染め出すもので鳳凰・龍・牡丹など大陸由来のモチーフや松・桜・梅といった日本的な意匠が鮮やかな色彩で表現された。また中国や東南アジアから伝わった紺や花織など、多彩な織物が数多くある。



白地流水蛇籠に桜薺菖蒲小鳥模様衣裳
沖縄県立博物館・美術館
[7/18～8/6展示]



国宝 琉球国王尚家関係資料 玉冠（付簪）
18～19世紀 那覇市歴史博物館
[8/22～9/2展示]

◆ 第1章 琉球の染織

琉球王国は、海上交易を通じて独

自の文化を発展させた。染織は東アジア諸国の技法や素材を受容しながら王国を象徴する美のひとつとなつて展覧する。

本章では、琉球王国の染織を特集し、その美しい色彩世界とデザイン

総合的にとらえ、その実像に迫る。

現在に守り伝えられた優品が集

■第2章 琉球絵画の世界



雪中雉子之図 座間味庸昌（殷元良）筆
沖縄県立博物館・美術館
[7/18～8/6 展示]



花鳥図 山口宗季（吳師虞）筆
大和文華館 [8/8～9/2 展示]

本章では、琉球絵画史上最初に名があがる自了から、王国を代表する絵師山口宗季、宮廷画家として活躍した座間味庸昌らの作品を通じて琉球絵画の実像に迫る。併せて中國・福州画壇の作品や、江戸で一大ブームとなつた琉球使節を主題とする品々を展観する。

本章では、琉球絵画史上最初に名があがる自了から、王国を代表する絵師山口宗季、宮廷画家として活躍した座間味庸昌らの作品を通じて琉球絵画の実像に迫る。併せて中國・福州画壇の作品や、江戸で一大ブームとなつた琉球使節を主題とする品々を展観する。

■第3章 琉球国王尚家の美

1470年以降、琉球王国は尚家によって治められてきた。1609年に薩摩藩の侵攻を受けて日本の幕藩制に組み込まれるも王国体制を維持していく。王都首里は琉球独自の文化で彩られ、首里城は中国をはじめ各地の宝物で満ちていた。明治政府成立で沖縄県が設置、首里城は明治政府へ明け渡された。首里城内にあつた王家の文物の一部は東京へ移され、至宝の数々が戦禍をまぬがれて生き残り、2006年に美術工芸85点と文書・記録類1166点が「琉球国王尚家関係資料」として国宝に指定された。

本章では、「琉球国王尚家関係資料」に含まれる珠玉のコレクションを

特別公開し、併せて王家や首里城にまつわる貴重な関係資料も紹介される。



国宝
琉球国王尚家関係資料
美御前御揃
那覇市歴史博物館



国宝
琉球国王尚家関係資料
紅色地龍寶珠瑞雲模様
衣裳
那覇市歴史博物館
[7/18～7/30 展示]



黒塗菊花鳥虫沈金丸外櫃
及び緑塗鳳凰雲沈金丸内櫃（個人）
画像：沖縄県教育委員会



黒塗雲龍螺鈿大盆
浦添市美術館

として花開いた。中でも最も古い作品のひとつが、勾玉をおさめたという「黒塗菊花鳥虫沈金丸外櫃及び緑塗鳳凰雲沈金丸内櫃」（個人）である。

漆芸品は琉球王国の重要な輸出品であり、貝摺奉行

として花開いた。中でも最も古い作品のひとつが、勾玉をおさめたという「黒塗菊花鳥虫沈金丸外櫃及び緑塗鳳凰雲沈金丸内櫃」（個人）である。

漆芸品は琉球王国の重要な輸出品であり、貝摺奉行チーフが多く用いられている。

「琉球 美の宝庫」展

会期：2018年7月18日（水）～9月2日（日）

※作品保護のため会期中展示替を行います【期間表示のない作品は全期間展示】

休館日：火曜日（ただし8月14日は18時まで開館）

開館時間：10時～18時（金・土は20時まで開館）

※いずれも入館は閉館の30分前まで

主催：サントリー美術館、読売新聞社

会場：サントリー美術館（東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階）

〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【本展における展覧会関連プログラム】

◎記念講演会「『琉球 美の宝庫』展によせて」：7月29日（日）14時～16時

◎特別公演「琉球國祭り太鼓 東京支部」：7月21日（土）12時～、14時～（各回約30分）

◎点茶席（お抹茶と季節のお菓子）：7月26日（木）、8月9日（木）・23日（木）・30日（木）

11時30分～17時30分（入室は17時まで）

所が製作を管理し、首里城を飾った御道具類などの美しい作品がつくられた。沈金、螺鈿、箔絵、密陀絵、堆錦など、様々な技法が駆使され、吉祥文や花鳥山水など中国的なモ